

平成 26 年度 第 2 回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時 平成 27 年 3 月 17 日(火) 午後 1 時～午後 2 時 15 分
場 所 LIC はびきの 教育研究所 会議室
出席者 (委員) 岸下委員、菅谷委員、脇谷委員、南野委員、竹内委員、嶋田委員、小沢委員、
堀井委員、上野委員
(教育委員会) 高崎教育長、白形教育次長
(事務局) 岩城課長、奥野館長、安東補佐、岩佐主幹
欠席者 (委員) 山田委員
傍聴者 なし

●開会

教育長挨拶
(教育長、教育次長 公務のため退席)

●議事

会長挨拶
事務局より、今回の会議から議事録の要録を WEB で公開する旨を提案したところ了承された。

議題 平成 27 年度事業計画について

事務局：(事業計画案をレジュメに基づき説明)

会長：何か意見はないか。

委員：特徴として子ども対象行事は充実しているが、大人対象の事業が必要ではないか。図書館は生涯学習の場であり、高齢社会を考えると大人対象の事業がないのは弱点ではないか。企画できる正規職員を増やすべきだ。

事務局 当市は児童サービスの充実に取り組んでおり関係団体の活動も活発。H27 年度は LIC 内で高齢者対象の事業が開始される予定であり連動事業を考えていきたい。また、中央図書館が開館 15 周年を迎えるので何か企画できないか考えている。

職員について意見があったが、H27 年度から市役所全体で臨時職員の制度が変わる。安定的・継続的に勤務してもらえるようになるので、その中で企画も出てくるかと思う。

委員：ダルビッシュ有文庫について、せっかくいただいているのでイベントを考えてもいいのでは。大人のスポーツの促進に関わる事業などどうか。ほかに大人の事業についてはどうか。

事務局：百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録を目指しており、その取組の中でも考えられればと思う。

委員：教育長の挨拶に課題解決との言葉があったが、図書館としてどう考えるか。職員の研修についてはどうか。

事務局：資料貸出を活動の基本としているが、課題解決のための資料収集も当然行っている。周知が弱いところがあるかもしれない。研修は大阪府や南河内地区の研修等に積極的に参加させている。各自の深めたい分野に参加し、必ず他の職員にフィードバックすることとしている。OJT（実地職業訓練）も重視している。

委員 : 大人向きの企画を提案したらバックアップしてもらえるか。

事務局 : バックアップさせていただく。

委員 : 例えば、趣味と特技の私設図書館をやっている人を知っている。図書館の企画として発信すれば、市内全体に広げられる。また、市職員が歴史遺産を案内するテレビ番組を見た。

委員 : 市内の企業の社長に話をしに来てもらうのはどうか。また、高齢者や大人向けの絵本の会などあってもいいと思う。市内に特技を持つ人がたくさんいるので事業展開につなげてはどうか。

委員 : 一回立ち上げると続けて事業ができるのでは。

事務局 : 職員の企画・提案を実行する気持ちもあるが予算がかかることは難しい。図書館と団体さんとの意思の疎通の機会が少なかったことを感じている。いただいた提案は承知した。

委員 : なぜ大人向きの企画ができないのかと考えた時、子ども向きなら文庫連絡会などの団体があるが、大人の人へのサポートする団体がないからできないのではと思った。

会長 : 以前、大人のためのおはなし会の希望の声があり、年に1回で始めたが結構大変だ。朗読ボランティアの方も自分たちの発表会をされている。市内には歴史環境を活かしたまちづくりをしているグループもあり活動されている。

委員 : そのグループの活動に頭を突っ込ませてもらって図書館とタイアップできたらいい。

委員 : 大人のおはなし会が大変とのことだが、ひとつの団体でなくほかの団体との合同でもいいのではないか。

会長 : 企画があれば図書館に持って行ってはどうか。実現できるかは別だが。

事務局 : 関連した例だが、大人向きの紙芝居が最近よく借りられている。

委員 : 3月7日に朗読ボランティアの発表会を行ったが盛会だった。団体主催だが、図書館主催で開催していただいてもいい。

委員 : 先に意見があったように、大人のための事業計画が少ない。他市の状況を調べてもらってこの場でも出してもらい、やっていけそうなことを話し合えばいいと思う。生涯学習の場である図書館として少し弱いかもしれない。他市の例を出していただけたら、そのままではなく参考にして、どういった事業ができるか考えればいい。

事務局 : 他市を調査し、羽曳野市に合った事業に取り組み、関係団体と進めていきたい。

委員 : 家庭で子どもが本を読まない。アンケートを取ったところ、親も本を読んでいないとの答が返ってきた。親に啓発する必要がある。家で大人が本を読まないとも子どもも読まない。

事務局 : 以前は事典や図鑑で調べものをしたが、今は高学年になるとスマホやタブレットを使うようになる。

委員 : 子どもたちに、学校から家に本を持って帰って読んでもらいたいと思っている。秋に市立図書館と連携し、羽曳野市読書月間として取り組み、積み重ねてきたことが徐々にできてきていると思う。市立図書館で調べ学習の本を揃えてくれている。各校に専任司書がいることは他市よりいいことだと思う。本の情報紙で発信することが大事だと考え、作成を予定している。学校司書会で作ったものを各校で使ってほしい。

委員 : 私は中学校勤務が永かった。学校図書館はほとんど利用されていない。生徒はクラブ活動などで時間がない。自分がしたい仕事は小学校の時に読む本で変わるものだと思う。一方、小学校では学校図書館の利用が多い。ただ、手元に残しておく本は親が買い与えることも大切ではないか。

委員 : 小学校におはなし会に行った後、3・4冊の本を紹介すると、あとで子どもから「どうしたらその本、読める？」と聞かれる。「学校図書館の司書の先生に聞けば教えてくれる」と話している。学校司書がいるからこそ案内できることであり、存在がありがたい。

会長 : コミックは読書に入らないか。

委員 : 歴史まんががあるが、読まないよりはいいと思う。

委員：学習まんがは読みやすい。視覚に訴える。朝読（あさどく）は文章の本を読むようにしている。

委員：古市図書館の利用率はどうか。

事務局：H24年度からH25年度を見ると全体的には減少傾向の中、若干だが増加している。今年度は厳しい状況である。2年前にネット予約、広域貸出の実施で貸出が伸びたことの反動、そしてヘビーユーザーの1回の貸出点数の減少が要因ではないかと考えている。

委員：駐車場がないのがネックかもしれない。

事務局：古市は羽曳野の図書館のスタートの施設だが、機能としては中央図書館にその役割は移っており、今は地域の図書館としての位置づけだ。

委員：青少年センターも入っているし、その辺でうまく利用していただけるといいのだが。

会長：古市図書館が休みに入る前に本を借りて、子育て支援センターで使っている。

事務局：前回の会議でもお尋ねがあり、関係課と調整したが、休館については現状でいかせてほしい。

委員：古市図書館がまちの図書館という考えはわかるが、駐車場がないのは古市だけだ。駐車場の必要性は頭に入れておいてほしい。

事務局：図書館としては、古市複合館との話で駐車場の必要性は持っておく。

委員：3月も終わりなので、新年度予算についてわかることがあれば聞かせてほしい。

事務局：H26年度と大きく変わらない。図書費は同額。

委員：図書費が変わっていないのなら貸出の減少の理由はどう考えているか。

事務局：ネット予約、広域貸出の実施で爆発的に増えた分の反動と考えている。

委員：中央図書館の15周年の予算はついているのか。

事務局：手づくりでいきます。

委員：読書月間について、校区外に子どもは行けないので、校区内に市立図書館があるかないかで差が出るのは残念だ。

会長：幼稚園バスに小学生が乗って図書館に行くことができないか。

事務局：前回もご質問いただいたが、循環バスに子ども一人で乗ってもらうことはできない。幼稚園が図書館見学に来られるなら、幼稚園から担当の管財用地課に市のバスがあるので、確認してほしいと答えさせてもらった。フォローが必要であればさせてもらうが、申請等が必要な場合は、幼稚園からの申請となる。

会長：バスがあるなら司書の方が、連れてきてあげてもらえたら図書館を利用できる。

委員：学校司書にはその時間を取ることはできない。免許の関係で司書は、支援者なので単独では動けない。担任の先生と一緒にやってもらっている。

委員：駒ヶ谷小学校は学校司書がいないのでどうにかしたい。

事務局：過去の会議録を見ているが、課題としてずっと来ていることは理解している。これまでと同じ答えと思うが、学校からの要望には応えていきたい。

会長：少しでも前に進んでいただけるよう、皆さんと共に要望は出していく。

●閉会